

札幌市立大学助産学専攻科における3つの方針（3ポリシー）

札幌市立大学助産学専攻科における教育理念のもと、以下のとおり「アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）」、「カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）」及び「ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）」の3つの方針を定めています。

アドミッション・ポリシー

本専攻科は、看護学を基盤に、助産に関する幅広く高度な知識と正確な技術を育み、地域社会における母子保健の向上に貢献できる人間性豊かな助産師の育成を目的としています。

これらの目的を達成するために、本専攻科が求める学生像は次のとおりです。

【助産学専攻科が求める学生像】

- 1 「生命の誕生」に、責任を持って真摯に向き合える誠実で優しい人
- 2 看護学を基盤に、倫理観を持ち、主体的に「助産学」を積み重ねることができる人
- 3 広い視野で現代社会をとらえ、母子保健を取り巻くさまざまな課題の解決を追究できる人

カリキュラム・ポリシー

助産学専攻科は、本学の理念を基盤に「助産に関する幅広く高度な知識と正確な技術を有する助産師」、「地域社会における母子保健の向上に貢献できる助産師」及び「人間性豊かな助産師」を育成するために、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成します。

- 1 授業科目は「基礎助産学」、「実践助産学」及び「統合助産学」の3つから構成する
- 2 「基礎助産学」は、助産の意義や助産師の責任・役割に関する知識、母子の健康支援に向けた助産診断技術を体系的に学修できるように、6つの授業科目を配置する
- 3 「実践助産学」は、幅広く助産師活動に必要な地域や施設における多様な母子への助産支援及び助産管理を、講義・演習・実習を通して学修できるように、9つの授業科目を配置する
- 4 「統合助産学」は、各種事例を多角的・研究的視点で分析し、助産実践に応用する能力及び研究論文を作成する能力の育成に向け、2つの授業科目を配置する

ディプロマ・ポリシー

本学の教育理念・教育目的に基づくカリキュラムを履修し、修了に必要な単位を修め、以下の能力を備えた学生に、修了を認定し修了証書を授与します。

- 1 助産に関する幅広い高度な知識を修得し、助産実践に活用できる
- 2 助産に特有な各種技術を修得し、助産実践に活用できる
- 3 助産師としての倫理的判断ができる
- 4 母子保健の現状を視野に入れ、その課題発見および解決に貢献できる
- 5 専門職として自己の課題を常に認識し、自己研鑽が継続できる

《目 次》

I	札幌市立大学の教育研究上の理念・特長・目的	1
II	助産学専攻科の教育課程	2
III	学事暦	6
IV	授業科目及び単位数	8
V	開講科目	
1	基礎助産学	10
2	実践助産学	18
3	統合助産学	28
VI	自己評価	32

I 札幌市立大学の教育研究上の理念・特長・目的

《 理 念 》

●人間重視を根幹とした人材の育成

デザイン学及び看護学は、人間を対象とした学問領域であり、「人間重視」を基本とし、安全で快適な暮らしを創造できる職業人を育成する。

●地域社会への積極的な貢献

「市民に開かれた大学」、「市民の力になる大学」、「市民が誇れる大学」の3つの視点を掲げ地域貢献という使命を果たす。

《 特 長 》

●デザインと看護の連携

デザイン学部と看護学部が連携・共同して、保健・医療・福祉分野を対象とする課題を共同研究する。

●幅広いネットワーク

市民、産業界、公的機関などと連携することにより、地域課題に対応した教育を行う。

《 目 的 》

●学術研究の高度化に対応した職業人の育成

デザインと看護に共通する「人間重視」の考え方を基本とし、デザイン分野では幅広いデザイン能力を持った職業人を、看護分野では医療の高度化に対応する知識・技術に加え、問題解決能力を有し他職種と連携できる職業人を育成する。

●まちづくり全体により大きな価値を生み出す 「知と創造の拠点」の形成

産業や芸術・文化の振興、都市機能・都市景観の向上などへ貢献するとともに、市民の健康の保持増進への貢献を果たす。
札幌市の行政施策との緊密な連携によって、地域課題の解決に積極的に取り組む。

II 助産学専攻科の教育課程

1 助産学専攻科の特色

本専攻科では、学士課程4年間において培った自己研鑽力が発揮できる教育課程をその特徴としています。その一つとして選択科目は設定していません。これは学生個々に助産学に広く関連した課題を発見し、自ら学びを深める機会を創るためです。加えて、この学びの更なる発展に向け助産学課題研究を行ないます。

また、一年間の学修では助産師に必要な基本的知識・技術を土台に、各種事例に対応できるよう高度な知識・技術を、熟練した助産師と専門医のもとで学修します。この学修では看護師資格が大いに役立ちます。

さらに、本学看護学部で既に取り組んでいる客観的臨床能力試験 (Objective Structured Clinical Examination、略称：OSCE)を助産学にも採用し、助産師活動に特有な各種助産技術能力の正確な修得を目指します。

6月(助産学実習開始前)と2月(修了前)には、助産師に必要な知識と技術に関する到達度の確認を行ない、一年間の学修を統合する機会を設けています。

2 教育目的

本専攻科の教育目的は、看護学を基盤に、助産に関する幅広く高度な知識と正確な技術を育み、地域社会における母子保健の向上に貢献できる人間性豊かな助産師の育成です。

これは、札幌市立大学の理念である「人間重視を根幹とした人材の育成」と「地域社会への積極的な貢献」を基盤としています。

なお、この教育目的の達成に向け、授業科目は①基礎助産学(6科目：10単位)、②実践助産学(9科目：16単位)*、③統合助産学(2科目：4単位)の、計17科目(30単位)で構成しています。

* 実践助産学「助産学実習」では、保健師助産師看護師学校養成所規則「実習中、分べんの取扱いについては、助産師又は医師の監督の下に学生一人につき十回程度行わせること」に基づく実習を行ないます。

3 学習目標

1) 一般目標：学習終了時に期待される成果

- 1) 助産師に必要な基本的かつ高度な知識を理解する。
- 2) 助産師に必要な基本的かつ正確な助産技術を身につける。
- 3) 助産師に必要な知識と技術を統合し、助産ケアを実施する。

(1) 学内演習において：各種シミュレーションを用いて、助産ケアを実施する。

(2) 臨地実習において：助言を受けながら、助産ケアを実施する。

2) 行動目標：一般目標を達成するために身に付けておくべき実践的能力

- ・「助産師の卒業時の到達目標と到達度(案)」参照

4 資格の取得

本専攻科の修了により、「助産師国家試験の受験資格」および「受胎調節実地指導員の資格」が取得できます。

この受胎調節実地指導員は、母体保護法第15条（受胎調節の実地指導）に定めのある制度です。受胎調節の実地指導を行うことのできる助産師・保健師・看護師のいずれかの有資格者をいい、国家資格です。この資格取得には、厚生労働大臣の定める基準に従って、都道府県知事の認定する講習を修了することが必要です。本専攻科の教育課程を修了した時点で、「認定講習修了証明書」を交付します。

助産師の卒業時の到達目標と到達度(案)

■卒業時の到達度レベル

I: 少しの助言で自立してできる II: 指導のもとでできる III: 学内演習で実施できる IV: 知識としてわかる

助産学総論	周産期医学論	乳幼児支援論	妊娠診断技術学	分娩期診断技術学	産褥期診断技術学	フィロソフ	周産期ハイリスク援助	助産学実習	地域母子保健論	助産管理論	助産学演習	助産学課題研究

助産師の卒業時の到達目標

大項目	中項目	小項目	到達度	
1 母子の命の尊重		1 母体の意味を理解しとその保護	II	
		2 子供あるいは胎児の権利の擁護	II	
		3 両者に関わる倫理的課題な対応	II	
2 妊娠期の診断とケア	A 妊婦と家族の健康状態に関する診断とケア	4 時期に応じた妊娠の診断方法の選択	I	
		5 妊娠時期の診断(現在の妊娠週数)	I	
		6 妊娠経過の診断	I	
		7 妊婦の心理・社会的側面の診断	I	
		8 安定した妊娠生活の維持に関する診断	I	
		9 妊婦の意思決定や嗜好を考慮した日常生活上のケア	I	
		10 妊婦や家族への出産準備・親準備の支援	I	
		11 現在の妊娠経過から分べん・産じよの予測と支援	I	
		12 流早産・胎内死亡など心理的危機に直面した妊産婦と家族のケア	II	
		B 出生前診断に関する支援	13 最新の科学的根拠に基づいた情報を妊婦や家族に提示	II
			14 出生前診断を考える妊婦の意思決定過程への支援	III
		3 分べん期の診断とケア	C 正常分べん	15 分べん開始の診断
	16 分べんの進行状態の診断			I
	17 産婦と胎児の健康状態の診断			I
18 分べん進行に伴う産婦と家族のケア	I			
19 経陰分べんの介助	I			
20 出生直後の母子接触・早期授乳の支援	I			
21 産婦の分べん想起と出産体験理解への支援	II			
22 分べん進行に伴う異常発生時の予測と予防的行動	I			
D 異常状態	23 異常発生時の観察と判断及び行動			II
	24 異常発生時の判断と必要な介入			I
	(1)骨盤出口部拡大体位		III	
	(2)会陰切開及び裂傷に伴う縫合(局所麻酔を含む)		III	
	(3)新生児の蘇生		III	
	(4)正常範囲を超える出血への処置		III	
	(5)子痲発作時の処置		IV	
	(6)緊急時の骨盤位分べん介助		IV	
	(7)急速遂娩術の介助		II	
	(8)帝王切開前後のケア		II	
	25 児の異常に対する産婦、家族への支援		IV	
	26 異常状態と他施設搬送の必要性の判断		IV	
4 産じよ期の診断とケア	E 産じよ期の診断とケア		27 産じよ経過に伴う身体的回復の診断	I
			28 産じよの心理・社会的側面の診断	I
		29 産後うつ症状の早期発見と支援	II	
		30 産じよのセルフケア能力を高める支援	I	
		31 産じよの育児に必要な基本的知識と技術支援	I	
		32 新生児と母親、父親、家族のアタッチメント形成の支援	I	
		33 産じよ復古が阻害されるか否かの予測と予防的ケア	I	
		34 生後1か月までの母子の健康状態の予測	I	
		35 生後1か月間の母子の健康診査	I	
		36 1か月健康診査の結果に基づいて母子と家族の支援とフォローアップ	II	
		37 母乳育児に関する母親に必要な知識の提供	I	
		38 母乳育児に関する適切な授乳技術、乳房ケア	II	
		39 母乳育児を行えない/行わない母親への支援	I	
		40 母子愛着形成の障害、児の虐待ハイリスク要因の早期発見と支援	III	
	F 新生児の診断とケア	41 出生後24時間までの新生児の診断とケア	I	
		42 生後1か月までの新生児の診断とケア	I	
G ハイリスク母子のケア	43 両親の心理的危機への支援	II		
	44 両親のアタッチメント形成に向けた支援	I		
	45 NICUにおける新生児と両親への支援	IV		
	46 次回妊娠計画への対応と支援	II		
5 出産・育児期の家族ケア	47 出生児を迎えた生活環境や生活背景をアセスメントする	I		
	48 家族メンバー全体の健康状態と発達課題のアセスメント	I		
	49 新しい家族システムの成立とその変化のアセスメント	II		
	50 家族間の人間関係のアセスメントと支援	II		
	51 地域社会の資源や機関を活用できる支援	II		
6 地域母子保健におけるケア	52 保健・医療・福祉関係者との連携	II		
	53 地域の特性と母子保健事業のアセスメント	II		
	54 消費者グループのネットワークへの参加とグループ支援	IV		
	55 災害時の母子への支援	IV		
7 助産業務管理	H 法的規定	56 保健師助産師看護師法等に基づく助産師の業務管理	IV	
		57 周産期医療システムの運用と地域連携	IV	
	I 周産期医療システムと助産	58 場に応じた助産業務管理の実践	I	
8 ライフステージ各期の性と生殖のケア(マタニティステージを除く)	J 思春期の男女への支援	(1)病院における助産業務管理	IV	
		(2)診療所における助産業務管理	IV	
		(3)助産所における助産業務管理	IV	
		59 思春期のセクシュアリティ発達への支援	III	
		60 妊娠可能性のあるケースへの対応と支援	IV	
		61 二次性徴の早・遅発ケースの対応と支援	IV	
	K 女性とパートナーに対する支援	62 月経障害の緩和と生活支援	III	
		63 性感染症予防とDV予防の啓発	IV	
		64 家族的支援と教育関係者及び専門職との連携支援	IV	
		65 家族計画(受胎調節法を含む)に関する選択・実施の支援	I	
		66 健康的な性と生殖への発達支援と自己決定の尊重	IV	
		67 DV(性暴力等)による予防と被害相談者への対応、支援	IV	
	L 不妊の悩みを持つ女性と家族に対する支援	68 性感染症罹患のアセスメント・支援及び予防に関する啓発活動、他機関との連携	IV	
		69 生活自立困難なケースへの妊娠・出産・育児に関する資源情報の提供と支援	IV	
70 不妊治療を受けている対象の理解と自己決定への支援		IV		
71 不妊検査・治療等の情報提供と資源活用の支援		IV		
M 中高年女性に対する支援	72 家族を含めた支援と他機関との連携	IV		
	73 健康的なセクシュアリティ維持に関する支援と啓発	III		
	74 中高年の生殖系に関する健康障害の予防と日常生活上の支援	IV		
9 助産師としてのアイデンティティの形成	75 加齢に伴う生殖系系の健康管理とQOLへの支援	IV		
	76 助産師としてのアイデンティティの形成	I		

出典:厚生労働省「看護教育の内容と方法に関する検討会 第一次報告」平成22年11月10日

Ⅲ 学事暦

週数	月	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	全学・看護学部の行事等
1	4月						1	2	
2		3 入学式・後援会総会	4 ガイダンス	5	6	7	8	9	
3		10 健康診断	11	12	13	14	15	16	
4		17	18	19	20	21	22	23	
5		24	25	26	27	28	29 昭和の日	30	
6	5月	1	2	3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6	7	
7		8	9	10	11	12	13	14	
8		15	16	17	18	19	20	21	
9		22	23	24	25	26	27	28	
10	29	30	31	1	2	3	4	基礎看護学臨床実習Ⅱ(5/22～6/2)	
11	6月	5	6	7	8	9	10	11	
12		12	13	14	15	16	17 専攻科説明会 オープンキャンパス	18	
13		19	20 定期試験 (OSCE)	21 定期試験	22 定期試験	23	24	25	
14		26 助産学実習	27	28	29	30	1	2	
15	7月	3	4	5	6	7	8	9	
16		10	11	12	13	14	15	16	
17		17 海の日	18	19	20	21	22	23	D編入学・博士前期課程入試(7/22)
18		24	25	26	27	28	29	30	
19	31	1	2	3	4 夏季休業開始	5	6	定期試験(8/1、8/4～10)	
20	8月	7	8	9	10	11 山の日	12	13	
21		14	15	16	17	18	19	20	追試験(8/17～18)
22		21	22	23	24	25	26	27	
23		28	29 夏季休業終了	30 ガイダンス 追・再試験 スキルアップ週間	31 追・再試験 スキルアップ週間	1 追・再試験 スキルアップ週間	2 専攻科入試 ・N編入学入試	3	
24	9月	4 助産学実習	5	6	7	8	9	10	再試験(9/8～12)
25		11	12	13	14	15	16 オープンキャンパス 大学祭(芸森C)	17 大学祭(芸森C)	
26		18 敬老の日 大学祭(桑園C)	19	20	21	22	23 秋分の日 D・N博士前期課程 入試	24	
27		25	26	27	28	29	30	1	9月卒業式・修了式(9/25) 後期ガイダンス(9/22、9/29)
28	10月	2	3	4	5	6	7	8	
29		9 体育の日	10	11	12	13	14	15	
30		16	17	18	19	20	21	22	基礎看護学臨床実習Ⅰ(10/16～20)
31		23	24	25	26	27	28	29	
32	30	31	1	2	3	4 文化の日	5	成人看護学臨床実習Ⅰ(10/30～11/17)	
33	11月	6	7	8	9	10	11	12	
34		13	14	15	16	17	18	19	
35		20	21	22	23 勤労感謝の日	24	25 学部特別選抜 入試	26	母性看護学臨床実習(11/20～12/15)
36		27	28	29	30	1	2	3	
37	12月	4	5	6	7	8	9	10	
38		11 助産学実習 (再・補充)	12	13	14	15	16	17	
39		18	19 冬季休業開始	20	21	22	23 天皇誕生日	24	
40		25	26	27	28	29	30	31	
41	1月	1 元旦	2	3	4	5 冬季休業終了	6	7	
42		8 成人の日	9	10	11	12	13 (センター試験)	14 (センター試験)	
43		15	16	17	18	19 助産学課題研究 発表会	20	21	
44		22 助産学実習 (再・補充)	23	24	25	26	27	28	母性看護学臨床実習(1/22～2/2)
45		29	30	31	1	2	3 N博士後期課程入試	4	
46	2月	5 修了試験 (筆記)	6 修了試験 (OSCE)	7	8	9	10	11	
47		12 建国記念日	13	14	15 国家試験(仮)	16	17	18	定期試験(2/14～2/20)
48		19 スキルアップ週間	20 施設見学	21 スキルアップ週間	22 スキルアップ週間	23 スキルアップ週間	24	25 学部一般前期・ D留学生入試	追試験(2/22、23)
49		26	27 修了判定会議	28	1	2	3 D博士後期課程入試	4	再試験(3/5～7)
50	3月	5	6	7	8	9	10	11	
51		12	13	14	15	16	17	18	D学部一般後期入試(3/12)
52		19 修了式	20	21 春分の日	22	23	24	25	
53		26	27	28	29	30	31		

IV 授業科目及び単位数

区分	科目 ナンバリング	授業科目の名称	授業 形態	単位数 (全科目：必修)	頁
基礎 助産学	M1A601	助産学総論	講義	2	11
	M1A602	周産期医学論	講義	2	12
	M1A603	乳幼児支援論	講義	2	13
	M1A604	妊娠期助産診断・技術学	演習	1	14
	M1A605	分娩期助産診断・技術学	演習	2	15
	M1A606	産褥期助産診断・技術学	演習	1	16
実践 助産学	M1A621	助産学フィールド演習	演習	1	19
	M1A622	周産期ハイリスク援助論	演習	1	20
	M1A623	地域母子保健論	講義	1	21
	M1A624	助産管理論	講義	1	22
	M1A625	助産学実習Ⅰ	実習	3	23
	M1A626	助産学実習Ⅱ	実習	3	24
	M1A627	助産学実習Ⅲ	実習	3	25
	M1A628	助産学実習Ⅳ	実習	2	26
	M1A629	助産学実習Ⅴ	実習	1	27
助産学 統合	M1A641	助産学演習	演習	2	29
	M1A642	助産学課題研究	演習	2	30
		合計		30	

V 開講科目

1 基礎助産学

授業 科目	助産学総論		単位数	2	講義 必修	科目等 履修生	不可
			時間数	30	前期		
科目責任者	宮崎みち子		担当教員	宮崎みち子 渡邊由加利 山内まゆみ 山本真由美 森川由紀			

■ 科目のねらい

助産学の基盤となる知識（助産の概念、助産実践の倫理、女性の人権など）、および助産師が行なうケアを支える理念を学修する。また、助産を取り巻く歴史の変遷を理解し、助産師の期待される役割を考察する。

■ 到達目標

- ① 助産学の基盤となる知識が理解できる。
- ② 日本および世界の助産の歴史・母子保健の動向を踏まえ、助産師の役割が考察できる。
- ③ 助産実践の基盤が理解できる。

■ 授業計画・内容

- 第1回 助産の概念(1):助産の概念の変遷、助産の定義・意義と本質・対象、助産師の定義
- 第2回 助産の概念(2):リプロダクティブヘルス/ライツ・ジェンダー・性差医療
- 第3回 助産の歴史(含、家族計画・助産師教育の歴史)
- 第4回 母子保健の動向(1):世界と人口、日本
- 第5回 母子保健の動向(2):諸外国
- 第6回 助産師の職制と業務・助産師と諸制度
- 第7回 助産学を支える理論:アタッチメント理論・絆理論・役割理論など(渡邊由加利)
- 第8回 助産師と倫理(1):職業倫理・助産師の倫理綱領
- 第9回 助産師と倫理(2):生命倫理;ひと(生命)の始まり
- 第10回 助産師と倫理(3):生命倫理;人工妊娠中絶・出生前診断・胎児の権利など
- 第11回 女性の健康と人権(1):思春期女性;月経・妊娠と出産・人工妊娠中絶など(山内まゆみ)
- 第12回 女性の健康と人権(2):成人期女性①女性に対する暴力
- 第13回 女性の健康と人権(3):成人期女性②家族計画・受胎調節・不妊など(森川由紀)
- 第14回 女性の健康と人権(4):中高年女性;更年期(山本真由美)
- 第15回 助産師の役割と責任

■ 成績評価基準・評価方法

授業への参加状況および定期試験(含、レポート)による総合評価。

■ 教科書

我部山キヨ子他編「助産学概論 第5版」(助産学講座1)(医学書院、2015年)
 村瀬聡美他編「母子の心理・社会学 第5版」(助産学講座4)(医学書院、2016年)
 母子衛生研究会編「母子保健の主なる統計 平成28年度刊行」(母子保健事業団、2017年)

■ 参考書

福井トシ子編「新版 助産師業務要覧Ⅰ基礎編 第2版」(日本看護協会出版会、2012年)
 福井トシ子編「新版 助産師業務要覧Ⅱ実践編 第2版」(日本看護協会出版会、2012年)
 その他、授業で紹介します。

■ 関連科目

全科目

■ その他(学生へのメッセージ・履修上の留意点)

助産学の基盤となる知識の確実な修得に向け、自己研鑽を重ねましょう。
 なお、本科目で展開する内容は、受胎調節実地指導員の資格認定に必要なものの一部を含みます。

授業科目	周産期医学論	単位数	2	講義 必修	科目等履修生	不可
		時間数	30	前期		
科目責任者	山内まゆみ	担当教員	山内まゆみ 堀本江美 高野良子 唯野貢司 西基 森川守 渡利道子 山本真由美 森川由紀			

■ 科目のねらい

正常な妊娠、分娩および産褥経過の診断、および正常からの逸脱を識別できるために必要な、妊娠、分娩および産褥の異常に関する基礎知識と検査法を学修する。また、性と生殖の形態・機能、母子の健康に影響を及ぼすさまざまな要因（遺伝・免疫・環境・栄養・薬剤など）、および女性のライフサイクル各期の主要疾患を学修する。

■ 到達目標

- ① 妊娠、分娩、産褥各期の正常経過が説明できる。
- ② 妊娠、分娩、産褥各期の正常からの逸脱の識別に必要な基礎的と検査法が理解できる。
- ③ 母子の健康に関与する各種要因が理解できる。
- ④ 女性のライフサイクル各期の主要疾患が理解できる。

■ 授業計画・内容

- | | | |
|-----------|---|----------|
| 第1回－第2回 | 妊娠期の解剖・生理（含 検査法） | （山内まゆみ） |
| 第3回－第4回 | 分娩期の解剖・生理（含、検査法） | （森川由紀） |
| 第5回－第6回 | 産褥期の解剖・生理（含、検査法 受胎調節） | （山本真由美） |
| 第7回－第8回 | 遺伝と遺伝疾患
（含、臨床遺伝学の基礎・出生前診断・遺伝カウンセリング）
超音波断層法を用いた診断 | } （渡利道子） |
| | 母子と免疫（免疫学概論母体・胎児・新生児の免疫学特性） | |
| 第9回－第10回 | 母子を取り巻く環境（含、母子感染・環境汚染・化学物質等） | （西基） |
| 第11回－第12回 | 母子と栄養
（妊産婦の病態栄養、妊婦・授乳婦の栄養、乳幼児・思春期の栄養） | |
| 第13回 | 母子と薬剤（母体・胎児・新生児と薬、女性と薬剤） | （唯野貢司） |
| 第14回－第15回 | 女性のライフサイクル各期の主要疾患（小児期・思春期・成熟期・更年期・老年期（含、性感染症・不妊）） | （堀本江美） |

■ 成績評価基準・評価方法

授業への参加状況および定期試験による総合評価。

■ 教科書

- 荒木勤「最新産科学 正常編 第22版」（文光堂、2008年）
 我部山キヨ子他編「母子の基礎科学」第5版（助産学講座2）（医学書院、2014年）
 我部山キヨ子他編「母子の健康科学」第5版（助産学講座3）（医学書院、2016年）
 我部山キヨ子他編「助産診断・技術学Ⅱ妊娠期[1]」第5版（助産学講座6）（医学書院、2013年）
 我部山キヨ子他編「助産診断・技術学Ⅱ分娩期・産褥期[2]」第5版（助産学講座7）（医学書院、2013年）
 横尾京子他編「助産診断・技術学Ⅱ新生児期・乳児期[3]」第5版（助産学講座8）（医学書院、2013年）
 可世木久幸監「助産師国家試験対策スキルアップ」（海馬書房、2015年）
 堀内成子編「助産診断・技術学Ⅰ」第5版（助産学講座5）（医学書院、2013年）

■ 参考書

授業で紹介します。

■ 関連科目

妊娠期助産診断・技術学、分娩期助産診断・技術学、産褥期助産診断・技術学、周産期ハイリスク援助論

■ その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）

助産学を学ぶ上で基礎となる知識です。テキストの内容を把握したうえで、授業に臨んで下さい。

授業 科目	乳幼児支援論	単位数	2	講義 必修	科目等 履修生	不可
		時間数	30	前期		
科目責任者	渡邊由加利	担当教員	渡邊由加利 小林正樹 渡辺大地 石引かずみ			

■ 科目のねらい

新生児および乳幼児の健康状態の診断、および正常からの逸脱を識別するために必要な新生児および乳幼児の異常に関する基礎的な知識（疾患と病態）を学修する。加えて、子どもの成長と発達、およびその評価法を学修する。また、家族と家族関係、母性・父性の心理的・社会的特徴をおよび育児支援に必要な知識を理解し、演習を通して乳幼児期の助産過程・保健相談について学修する。

■ 到達目標

- ① 新生児・乳幼児の生理および異常が理解できる。
- ② 子どもの成長と発達が理解できる。
- ③ 母性および父性の心理的・社会的特徴が説明できる。
- ④ 家族関係を踏まえた育児支援が説明できる。

■ 授業計画・内容

- | | | | |
|-----------|--------------------------------------|---|--------|
| 第1回－第4回 | 新生児・乳幼児の生理 | } | (小林正樹) |
| 第5回－第6回 | 新生児・乳幼児期の疾患と病態 | | |
| 第7回 | 妊娠・出産・育児期にある家族の特徴と支援（渡邊由加利） | | |
| 第8回－第9回 | 妊娠・出産・育児期にある家族への支援（渡辺大地） | | |
| 第10回 | 乳幼児の発育発達と健康診査（石引かずみ） | | |
| 第11回－第15回 | 育児支援（新生児家庭訪問の助産過程・保健相談）（石引かずみ・渡邊由加利） | | |

■ 成績評価基準・評価方法

授業への参加状況および定期試験・レポートによる総合評価。

■ 教科書

- 仁志田博司「新生児学入門 第4版」（医学書院、2012年）
 我部山キヨ子他編「母子の心理・社会学」（助産学講座4）（医学書院、2016年）
 横尾京子他編「助産診断・技術学Ⅱ 新生児期・乳児期[3]」（助産学講座8）（医学書院、2013年）
 堀内成子編：「助産診断・技術学Ⅰ」（助産学講座5）（医学書院、2013年）
 母子衛生研究会編「母子健康手帳」（母子保健事業団、2016年）

■ 参考書

- 高野陽他編：母子保健マニュアル（南山堂、2010年）
 渡辺大地：産後が始まった（KADOKAWA/メディアファクトリー、2014年）
 渡辺大地：赤ちゃんがやってくる！（KADOKAWA/メディアファクトリー、2016年）

■ 関連科目

周産期医学論、周産期ハイリスク援助論、妊娠期助産診断・技術学、分娩期助産診断・技術学産褥期助産診断・技術学 助産学演習（健康相談）

■ その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）

- 乳幼児の発育・発達と家族への支援を関連づけて学ぶこと。
 新生児の観察技術を修得して演習に臨むこと。
 第11回-第15回は模擬患者の参加による貴重な学修の機会である。演習を通して家庭訪問・保健相談における自己の課題を明らかにして実習につなげること。

授業科目	妊娠期助産診断・技術学	単位数	1	科目区分 必修	科目等履修生	不可
		時間数	30	前期		
科目責任者	山内まゆみ	担当教員	山内まゆみ 石引かずみ			

■ 科目のねらい

妊娠期が順調に経過し、妊婦とその家族が安全で快適な生活を送るために必要な助産診断・援助技術を学ぶ。

■ 到達目標

- ① 妊婦とその家族の身体的・心理的・社会的状態を理解する。
- ② 妊娠期の助産診断に必要な基礎的技術を理解し、診断できる。
- ③ 妊娠期の助産診断・技術を理解し、実践できる。
- ④ 事例を用い、妊婦の主体性を尊重した助産過程を展開することができる。

■ 授業計画・内容

第1回	妊娠期の助産診断・技術、助産診断過程、支援の目的	(山内)
第2回－第4回	妊娠期の助産診断(妊娠初期)と支援・診断技術	} (山内・石引)
第5回－第7回	妊娠期の助産診断(妊娠中期)と支援・診断技術	
第8回－第10回	妊娠期の助産診断(妊娠後期)と支援・診断技術	
第11回－第13回	事例を用いた助産診断過程の実際	(グループワーク:石引・山内)
第14回－第15回	妊婦の日常生活、妊婦や家族の親準備・出産準備へのケア演習	(グループワーク:石引・山内)

■ 成績評価基準・評価方法

演習への参加状況および定期試験・技術試験・レポート、等による総合評価

■ 教科書

我部山キヨ子他編:「助産診断・技術学Ⅱ妊娠期[1]」第5版(助産学講座6)(医学書院、2013年)
母子衛生研究会編「母子健康手帳」(母子保健事業団、2016年)

■ 参考書

『妊産婦のための食生活指針「健やか親子21」推進検討会報告書』(「健やか親子21」推進検討会 食を通じた妊産婦の健康支援方策研究会 平成18年2月)
<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2006/02/h0201-3a.html>
日本産婦人科学会/日本産婦人科医会編「産婦人科診療ガイドライン産科編2014(日本産科婦人科学会、2014年)
我部山キヨ子他編:「母子の健康科学第5版」(助産学講座3)(医学書院、2016年)
森恵美編:「妊娠期の診断とケア」(助産師基礎教育テキスト第4巻)(日本看護協会出版会、2016年)
荒木務:「最新産科学 正常編 第22版」(文光堂、2008年)
荒木務:「最新産科学 異常編 第22版」(文光堂、2012年)

■ 関連科目

助産学フィールド演習、分娩期助産診断技術学、産褥期助産診断技術学、周産期医学論、周産期ハイリスク援助論、他

■ その他(学生へのメッセージ・履修上の留意点)

母性看護学ですでに得ている知識・技術は、復習してから授業に臨んでください。小テストを適時行います。妊娠期の支援に必要な基礎的能力は、皆さん自身が健康的な生活を目指す生活の知恵や技術が基礎的能力となります。学生生活の中で妊婦の支援に活用できる情報をキャッチするアンテナを高く伸ばしながら授業に参加してください。自己学修のための課題は適時提示する予定です。グループワークによる学習方法を積極的に取り入れます。

授業科目	分娩期助産診断・技術学	単位数	2	科目区分 必修	科目等履修生	不可
		時間数	60	前期		
科目責任者	森川由紀	担当教員	森川由紀 森川守 渡邊由加利 山内まゆみ 山本真由美 石引かずみ			

■ 科目のねらい

産婦（胎児及び新生児を含む）とその家族へ、安全・安楽な支援に必要な助産診断・技術を学ぶ。

■ 到達目標

- ① 産婦と胎児・新生児及びその家族の身体的・心理的・社会的状態を理解できる。
- ② 分娩期の助産診断に必要な基本的知識と技術を修得する。
- ③ 分娩期の助産診断を理解し、事例を用いて助産過程の展開ができる。
- ④ 安全・安楽に配慮した分娩期の診断技術・援助技術を修得する。

■ 授業計画・内容

- 第 1 回－第 7 回 分娩期の形態機能、助産診断・技術（講義）
 第 8 回－第 10 回 分娩介助技術・出生直後の児の観察技術（講義・演習）
 第 11 回－第 13 回 分娩期の診断技術・分娩介助技術・出生直後の児の支援（演習）
 第 14 回－第 16 回 事例を用いた助産過程の展開（演習）、胎児・出生直後の児の助産診断と支援
 産婦への支援（分娩促進の支援・産痛緩和・リラクゼーション）（講義）
 第 17 回－第 19 回 分娩経過に伴う診断・アセスメントと支援（講義・演習）
 第 20 回－第 22 回 分娩介助技術（仰臥位分娩）・助産過程（演習）（実務家教員）
 第 23 回－第 25 回 分娩時異常への対応（帝王切開術を含む）、分娩期助産過程のまとめ（講義）
 第 26 回－第 27 回 分娩介助技術（フリースタイル）（講義・演習）（ゲストスピーカー）
 第 28 回 会陰縫合技術（講義・演習）（森川守）
 第 29 回－第 30 回 助産技術・助産過程（実習後演習）

■ 成績評価基準・評価方法

授業・演習への参加状況および定期試験・助産過程・技術試験による総合評価

■ 教科書

我部山キヨ子他編：助産学講座 6「助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期」（医学書院、2013 年）
 我部山キヨ子他編：助産学講座 7「助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩・産褥期」（医学書院、2013 年）
 我部山キヨ子他編：助産学講座 3「母子の健康科学」（医学書院、2016 年）
 荒木勤「最新産科学 正常編 第 22 版」（文光堂、2008 年）
 荒木勤「最新産科学 異常編 第 22 版」（文光堂、2012 年）

■ 参考書（随時紹介）

産婦人科診療ガイドライン-産科編 2014 産婦人科ガイドライン 2014 年
 町浦美智子編：助産師基礎教育テキスト第 5 巻 2015 年度版分娩期の診断とケア（日本看護教育出版会、2015 年）

■ 関連科目

助産学演習、周産期医学論、周産期ハイリスク援助論、妊娠期助産診断・技術学、産褥期助産診断技術学

■ その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）

分娩期は瞬時の判断、安全な技術が求められます。実習時に直接介助を行うためには、実習前に直接介助技術、新生児の観察技術の試験に合格していることが条件です。分娩期の助産診断・技術を短時間で集中的に学修するので、着実に知識や技術を定着するために、自己学習を積み重ね研鑽してください。助産過程の基本となる看護過程、基礎看護技術を復習して臨んでください（特に清潔物品の取り扱い・ガウンテクニック・点滴時の清拭と更衣・導尿）。

授業科目	産褥期助産診断・技術学	単位数	1	科目区分 必修	科目等履修生	不可
		時間数	30	前期		
科目責任者	山本真由美	担当教員	山本真由美 渡邊由加利			

■ 科目のねらい

産褥・新生児期が順調に経過し、褥婦と新生児およびその家族が良好な相互関係を築くために必要な助産診断・技術を学ぶ。

■ 到達目標

- ① 褥婦と新生児およびその家族の身体的・心理的・社会的状態が理解できる。
- ② 産褥期・新生児期の助産診断・技術を理解し、実践できる。
- ③ 退院後の生活・育児に向けた支援を考えることができる。
- ④ 事例を用い、その主体性を尊重した助産過程を展開できる。

■ 授業計画・内容

第1回	産褥期の身体的変化と産褥経過に伴った助産診断と支援
第2回	産褥期の心理・社会的側面の助産診断と支援（含、両親と子の絆とアタッチメント）
第3回－第4回	新生児の健康状態と子宮外生活への適応過程の診断
第5回	新生児の基本的ニーズと支援
第6回	母乳育児支援、親役割行動獲得のための支援
第7回－第8回	退院後の生活に向けた予期的指導（含、受胎調節・栄養）
第9回	家庭生活への移行に伴う支援
第10回	授乳・育児支援の助産技術
第11回－第12回	産褥期・新生児期の助産技術（含、帝王切開を受けた褥婦・新生児）
第13回－第15回	事例を用いた助産過程の展開（含、退院指導案の作成）

■ 成績評価基準・評価方法

授業への参加状況および定期試験・技術試験・授業への参加による総合評価

■ 教科書

我部山キヨ子他編：「助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩・産褥期」（医学書院，2013）
 我部山キヨ子他編：「助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・幼児期」（医学書院，2013）
 仁志田博司：「新生児学入門 第4版」（医学書院，2012）

■ 参考書

日本産婦人科学会/日本産婦人科医会編「産婦人科診療ガイドライン産科編2014」（日本産科婦人科学会，2014）
 厚生労働科学研究妊娠出産ガイドライン研究班「科学的根拠に基づく快適で安全な妊娠出産のためのガイドライン」（金原出版，2013）
 日本ラクテーション・コンサルタント協会：「母乳育児支援スタンダード第2版」（医学書院，2015）
 BFHI2009 翻訳編集委員会 UNICEF/WHO 赤ちゃんとお母さんにやさしい母乳育児支援 ベーシックコース「母乳育児成功のための10か条」の実践（医学書院，2009）
 厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課「授乳・離乳支援ガイド」2007年3月
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/03/s0314-17.html> その他、授業で随時紹介します。
 竹内正人編：「帝王切開のすべて」（ペリネイタルケア2013年新春増刊）

■ 関連科目

周産期医学論 周産期ハイリスク援助論 乳幼児支援論 助産学フィールド演習 助産学演習

■ その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）

本科目は看護基礎教育で既習した母性看護学に関する知識・技術を前提として授業を進めます。事前に十分復習して授業に臨んでください。特に技術の復習の有無が、実習の母子への支援に反映しますので、自己学修を充実させてください。

本科目は適宜グループワークを行いながら進めていきます。第14・15回は発表形式を取ります。なお、本科目で展開する内容は、受胎調節実地指導員の資格認定に必要なものの一部を含みます。

V 開講科目

2 実践助産学

授業 科目	助産学フィールド演習	単位数	1	演習 必修	科目等 履修生	不可
		時間数	30	前期		
科目責任者	山内まゆみ	担当教員	山内まゆみ 石引かずみ			

■ 科目のねらい

女性および母子を取り巻く健康課題を解決するために必要となる健康教育技法に関する知識・技術を学修する。具体的には、健康教育（母親教室）の運営場所の選定を含む企画から実際に運営を体験することから学修する。

■ 到達目標

- ① 健康教育（母親学級）の企画に必要な基礎知識を得る。
- ② 母親学級の企画、運営が実践できる。
- ③ 母親学級の企画・運営の体験を元に、集団教育の意味と効果について考察できる。

■ 授業計画・内容

第1回－第3回	健康教育の技法
第4回	健康教育の実際（施設見学）
第5回－第6回	健康教育に必要な態度の演習
第7回－第11回	健康教育運営に向けた企画立案
第12回－第13回	企画案のデモンストレーション
第14回－第15回	健康教育運営・評価

■ 成績評価基準・評価方法

演習への参加状況、メンバーシップ状況、およびレポートによる総合評価

■ 教科書

堀内成子編：「助産診断・技術学Ⅰ」第5版（助産学講座5）（医学書院、2013年）
 我部山キヨ子他編：「助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期」第5版（助産学講座8）（医学書院、2013年）
 我部山キヨ子他編：「助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期」第5版（助産学講座6）（医学書院、2013年）

■ 参考書

授業で適時紹介します。

■ 関連科目

妊娠期助産診断技術学、助産学実習等、全科目

■ その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）

妊婦を対象に健康教育の企画を行い運営することから学びます。学内で基本的な知識を得た後に、9月の運営を予定しています。グループワークにより主体的に学修を進めてください。
 なお、本科目で展開する内容は、受胎調節実地指導員の資格認定講習の一部を含みます。

授業科目	周産期ハイリスク援助論	単位数	1	演習 必修	科目等履修生	不可
		時間数	30	前期		
科目責任者	平山恵美	担当教員	平山恵美 荒木英司 鈴木伸和 紅粉睦男 佐野敬夫 野呂歩 塩野展子 山田俊 石田桐代 城戸真紗美 (科目調整者: 渡邊由加利)			

■ 科目のねらい

ハイリスク妊娠（心疾患、腎疾患、内分泌系疾患、精神疾患を有する妊婦）および異常妊婦（妊娠に起因する異常）、ハイリスク分娩および異常分娩（分娩経過に起因する異常）、産褥期の異常および偶発疾患を有する褥婦およびハイリスク新生児の支援に必要な知識・技術およびケアを学修する。また、死産・産褥早期に児を亡くした褥婦のケアを学修する。

■ 到達目標

- ① 母子の周産期の異常が理解できる。
- ② 異常時に必要なケアを理解する。

■ 授業計画・内容

第1回－第3回	妊娠に起因する異常と病態、ハイリスク分娩、異常分娩・産褥と病態	} (平山恵美)
第4回	産科手術および産科的医療処置	
第5回	周産期の心疾患・呼吸器疾患と病態 (荒木英司)	
第6回	周産期の泌尿器系疾患と病態 (鈴木伸和)	
第7回	周産期の内分泌疾患と病態 (含、糖尿病・妊娠糖尿病・甲状腺疾患) (紅粉睦男)	} (石田桐代)
第8回	周産期の精神疾患と病態 (含、産前後のうつ病・マタニティブルーズ・産褥精神病) (佐野敬夫)	
第9回－第11回	ハイリスク新生児と緊急時対応 (含、新生児蘇生法) (野呂歩・塩野展子)	
第12回	未受診妊婦の課題 (山田俊)	
第13回	ハイリスク妊娠・分娩、異常妊婦・産婦の支援	
第14回	ハイリスク産褥・異常褥婦の支援	} (石田桐代)
	死産・産褥早期に児を失くした褥婦の支援	
第15回	ハイリスク新生児の支援 (城戸真紗美)	

■ 成績評価基準・評価方法

授業への参加状況および定期試験による総合評価。

■ 教科書

- 荒木勤「最新産科学 正常編 第22版」(文光堂、2008年)
- 荒木勤「最新産科学 異常編 第22版」(文光堂、2012年)
- 我部山キヨ子他編「助産診断・技術学Ⅱ妊娠期[1]」(助産学講座6)(医学書院、2013年)
- 我部山キヨ子他編「助産診断・技術学Ⅱ分娩期・産褥期[2]」(助産学講座7)(医学書院、2013年)
- 横尾京子編「助産診断・技術学Ⅱ新生児期・乳児期[3]」(助産学講座8)(医学書院、2013年)
- 仁志田博司「新生児学入門 第4版」(医学書院、2012年)
- 我部山キヨ子他編「母子の心理・社会学」(助産学講座4)(医学書院、2016年)

■ 参考書

関連科目の教科書および参考書

■ 関連科目

周産期医学論 乳幼児支援論 妊娠期助産診断・技術学 分娩期助産診断・技術学 産褥期助産診断・技術学

■ その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)

周産期は、正常に経過することがほとんどです。しかし、突然様々な異常や合併症が出現し、母児の生命に危険が及ぶことがあります。正常経過を診断するためには、異常が理解できていなければなりません。また、緊急の状況に対処するためには、日頃からの演習が重要になります。自己学修を行い、学びを深めていって下さい。

授業科目	地域母子保健論	単位数	1	講義 必修	科目等履修生	不可
		時間数	15	前期		
科目責任者	渡邊 由加利	担当教員	斉藤そのみ 大野夏代 渡邊由加利			

■ 科目のねらい

地域母子保健活動の意義・しくみを理解し、その活動の実際（含、他職種との連携）を別海町の「母子健康センター事業計画・実績」に基づき学修する。また、国際化に伴う外国人母子に対する地域母子保健活動の実際を学修する。

■ 到達目標

- ① 地域母子保健活動の意義が説明できる。
- ② 資料を基に、地域母子保健活動の実態を把握し、今度の展望が考察できる。

■ 授業計画・内容

第1回	地域母子保健の意義としくみ	(斉藤そのみ)
第2回－3回	母子保健の現状と動向 地域母子保健行政の体系 災害と母子保健活動	}
第4回	地域母子保健活動の展開	
第5回	国際化と地域母子保健 (1)	(大野夏代)
第6回	国際化と地域母子保健 (2)	(大野夏代)
第7回－8回	地域母子保健活動の実際	(渡邊由加利)

■ 成績評価基準・評価方法

授業への参加状況、レポート（含、地区診断）による総合評価。

■ 教科書・参考文献等

我部山キヨ子他編「地域母子保健・国際母子保健」（助産学講座9）（医学書院、2016年）
 福井トシ子編「新版 助産師業務要覧Ⅰ 基礎編 第2版」（日本看護協会出版会、2012年）
 福井トシ子編「新版 助産師業務要覧Ⅱ 実践編 第2版」（日本看護協会出版会、2012年）
 母子衛生研究会編「母子保健の主なる統計 平成28年度刊行」（母子保健事業団、2017年）

■ 関連科目

助産学フィールド演習 助産学実習Ⅳ

■ その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）

第2・3・4・7・8回の学修は、助産学実習Ⅳの別海町母子健康センターの実習に連動しています。

授業 科目	助産管理論	単位数	1	講義 必修	科目等 履修生	不可
		時間数	15	前期		
科目責任者	宮崎みち子	担当教員	山原和恵 水野栄子 宮下美代子 宮崎みち子			

■ 科目のねらい

看護管理の理念（含、チーム医療）を基盤に、助産管理の基本を学修する。また、周産期医療を取り巻く助産管理の実際（含、医療事故防止・対応）を、さまざまな助産活動の場を通して理解する。加えて、助産サービスの評価、助産管理に必要な社会保障制度および助産所の管理運営の基本を学修する。

■ 到達目標

- ① 助産業務の本質をとらえた助産管理の基本が説明できる。
- ② 助産師の活動するさまざまな場の特性を踏まえた助産管理が理解できる。
- ③ 助産所運営の基本が理解できる。

■ 授業計画・内容

- | | | |
|-----|--------------------------------------|-----------|
| 第1回 | 管理の基本概念とプロセス・助産管理の概念 | } (宮崎みち子) |
| 第2回 | 助産管理と関連法規・社会保障制度 | |
| 第3回 | 周産期管理システムとリスクマネジメント | |
| 第4回 | 助産所・診療所・病院における助産管理の基本 | |
| 第5回 | 病院における助産管理の実際（含、総合周産期母子医療センター）（山原和恵） | |
| 第6回 | 診療所における助産管理の実際（水野栄子） | |
| 第7回 | 助産所における助産管理の実際（宮下美代子） | |
| 第8回 | 助産サービスとその評価（宮崎みち子） | |

■ 成績評価基準・評価方法

授業への参加状況および定期試験（含、レポート）による総合評価。

■ 教科書

- 我部山キヨ子他編「助産管理 第5版」（助産学講座10）（医学書院、2016年）
 福井トシ子編「新版 助産師業務要覧Ⅰ基礎編 第2版」（日本看護協会出版会、2012年）
 福井トシ子編「新版 助産師業務要覧Ⅱ実践編 第2版」（日本看護協会出版会、2012年）

■ 参考書

日本助産師会編「助産業務ガイドライン2014」（日本助産師会、2014年）

■ 関連科目

助産学総論 助産学演習 助産学実習Ⅳ

■ その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）

多様化する助産師業務の質の維持・向上に向けた助産管理を、授業・実習を通し共に考えましょう。ここでの学びを助産学演習の「助産師活動」および「出産する場」の学修につなげていきましょう。

授業 科目	助産学実習 I	単位数	3	科目区分 必修	科目等 履修生	不可
		時間数	135	通年		
科目責任者	山内まゆみ	担当教員	山内まゆみ 渡邊由加利 山本真由美 森川由紀 石引かずみ 大友舞			

■ 科目のねらい

妊娠・分娩・産褥期にある女性とその家族および新生児を継続的に受け持ち、助産過程を展開することができる。

■ 到達目標

- ① 妊娠・分娩・産褥期にある女性とその家族の身体的・心理的・社会的健康状態、胎児・新生児の発育・発達及び健康状態について、継続性および個別性を重視した助産過程を展開する。
- ② 適切な診断技術、相談・教育・支援技術を用いて安全・安楽を考慮した支援を実践する。
- ③ 助産師学生として、さらに医療チームの一員として責任ある行動をとることができる。
- ④ 妊娠・分娩・産褥期にある女性とその家族、新生児の身体的・心理的・社会的健康状態について助産師が継続的に支援する意義について考察する。
- ⑤ 実践を通して助産師の役割・責任を理解し、自己の課題を明確にできる。

■ 実習施設

市立札幌病院・JCHO 北海道病院他

■ 実習計画・内容

1. 実習計画

1) 継続事例 2 例を受け持つ

- ① 妊娠期から産後 1 か月までの期間を継続（ロングケース）－1 例（原則として初産）
- ② 分娩期から退院までの期間を継続（ショートケース）－1 例（初産・経産は問わない）

2. 実習内容

- 1) 妊娠期：妊婦の定期健診時の健康診査及び保健指導
- 2) 分娩期：分娩経過の診断、分娩介助とケア
- 3) 産褥期：褥婦および新生児の健康診査とケア（入院中・家庭訪問・産後健診）

■ 成績評価基準・評価方法

2/3 以上の出席を原則とし、実習内容、実習態度および実習記録・レポートに基づき総合的に評価する。理由なく実習記録・レポートの提出が遅れる場合は評価対象外となる。

■ その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）

この実習では一人の対象者を妊娠期から分娩、産褥、新生児、育児期まで継続的に受け持ち、支援をします。常に他の講義や実習と重複しながら実習します。多くの調整が必要となりますので、自ら助産師学生として責任ある行動をとることが、学修を積み上げるうえで重要です。既習の知識・技術を復習して臨んでください。実施した判断・支援を評価し、自己の課題を見出しながら、主体的に学修を積み上げていくことを期待します。

授業 科目	助産学実習Ⅱ		単位数	3	科目区分 必修	科目等 履修生	不可
			時間数	135	通年		
科目責任者	森川由紀		担当教員	森川由紀 渡邊由加利 山内まゆみ 山本真由美 石引かずみ 大友舞			

■ 科目のねらい

分娩期にある女性とその家族の身体的、心理的、社会的健康状態、および胎児・新生児の発育・発達と健康状態を守るために、助産過程を展開しながら、安全・安楽に配慮し、満足感のある出産の支援の実際を学修する。

■ 到達目標

- ① 分娩期にある女性とその家族の身体的・心理的・社会的健康状態、胎児・新生児の発育・発達および健康状態について助産過程を展開する。
- ② 適切な診断技術、相談・教育・ケア技術を用い、産婦の主体性を尊重して安全・安楽を考慮した支援を実践する。
- ③ 産婦の主体性を尊重し、安全・安楽な分娩介助を実施する。
- ④ 出生直後の新生児の観察し、新生児の胎外適応を促す支援を実施する。
- ⑤ 分娩期におこる異常の早期発見、緊急対応について実践を通して学ぶ。
- ⑥ 助産師学生として、医療チームの一員として責任ある行動をとることができる。
- ⑦ 分娩期における助産師の役割・責任を理解し、自己の課題を明確にできる。

■ 実習施設

市立札幌病院・市立釧路総合病院・愛産婦人科・JCHO 北海道病院・手稲溪仁会病院他

■ 実習計画・内容

1. 分娩直接介助、出生直後の児のケアの実施は、技術試験に合格していることを前提とする。
2. 産婦を受け持ち、助産過程を用いてケアを展開する（原則として分娩第Ⅰ～Ⅳ期を継続して受け持てる産婦）。実習目標に到達するまで行う。
3. 直接介助 10 例以上・間接介助 2 例以上・新生児の観察とケア 3 例以上を目標に到達するまで行う。実施の機会があるときは積極的・主体的に経験を積む。
4. 帝王切開時の助産師の役割を 1 例見学する（可能であれば新生児のケアを実施する）。
5. 分娩時に受け持った産婦のバースレビューを行う。
6. その他
 - 1) 入院時のケアを行う（陣痛発来で入院した産婦、誘導分娩のため入院した産婦）。
 - 2) 異常分娩、産科処置（点滴の準備・管理、ラミナリア、メトロイリーゼの介助、人工破膜）については、見学および機会あれば指導のもとその援助を行う。

■ 成績評価基準・評価方法

- ・ 2/3 以上の出席を原則とし、実習内容、実習態度および実習記録に基づき総合的に評価する。
- ・ 助産過程の展開・助産技術の到達状況によっては、実習を中断する場合がある。その際は学内演習等による補充後に臨地実習を再開する（実習単位はF評定となり、再試験の扱いとなる）。
- ・ 理由なく実習記録・レポートの提出が遅れる場合は評価対象外となる。

■ その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）

分娩期の実習は、緊張を伴い長時間に及ぶこともあるため、体調を整えて実習に臨むこと。母児への安全・安楽な援助を行うためには正確な観察と助産診断、安全な技術が求められます。受け持った産婦の助産過程を毎回評価し、自己の課題を明確にしたうえで実習に臨んでください。

授業 科目	助産学実習Ⅲ		単位数	3	科目区分 必修	科目等 履修生	不可
			時間数	135	通年		
科目責任者	山内まゆみ		担当教員	山内まゆみ 渡邊由加利 山本真由美 森川由紀 石引かずみ 大友舞			

■ 科目のねらい

妊娠期・産褥期にある女性とその家族の身体的・心理的・社会的健康状態、および胎児・新生児の発育・発達および健康状態を守るために、助産過程を展開しながら、安全・安楽に配慮した支援の実践を学修する。

■ 到達目標

- ① 妊娠期・産褥期にある女性とその家族の身体的・心理的・社会的健康状態、新生児（胎児）の発育・発達および健康状態について助産過程が展開できる。
- ② 適切な診断技術、相談・教育・観察技術を用いて、対象者の安全・安楽を考慮したケアが実践できる。
- ③ 妊婦・褥婦の家庭での生活を踏まえ、家族を含む対象者のセルフケア能力が最大限発揮できるためケアが実践できる。
- ④ 助産師学生として、医療チームの一人として責務をこなせる行動をとることができる。

■ 実習施設

市立札幌病院・JCHO 北海道病院他

■ 実習計画・内容

1. 実習計画

- 1) 妊娠期実習 1 単位
- 2) 産褥・新生児期実習 2 単位

2. 実習内容

1) 妊娠期

- ① 4 例以上の妊婦を受け持ち、妊婦健康診査から保健相談までを実施する（初診の妊婦は予診のから保健指導までを実施、あるいは見学）。
- ② 初・経産婦別、妊娠期各期を考慮して受け持つ。
- ③ 1 事例についてプロセスレコードをとり、自己の援助を再構成し自己の看護実践の課題を明らかにする（対象者のニーズを捉えていたか、ニーズにあった援助であったか、自己の傾向が援助に及ぼす影響）。

2) 産褥・新生児期

- ① 正常経過をたどる褥婦とその新生児を継続して 2 例以上受け持ち、助産過程を展開する。なお、施設により 1 週目は新生児を中心とした助産過程の展開をする場合もある。
- ② 退院後の生活も想定し、予期的な支援をする。

■ 成績評価基準・評価方法

2/3 以上の出席を原則とし、実習内容・態度および実習記録に基づき総合的に評価する。理由なく実習記録の提出が遅れる場合、評価対象外となる。

■ その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）

妊娠期助産診断・技術学、産褥期助産診断・技術学、フィールド演習等実習前に学修した内容を十分に復習し、実習に臨んでください。

授業 科目	助産学実習Ⅳ		単位数	2	科目区分 必修	科目等 履修生	不可
			時間数	90	後期		
科目責任者	渡邊由加利		担当教員	渡邊由加利 山内まゆみ 山本真由美 森川由紀 石引かずみ 宮崎みち子 大友舞			

■ 科目のねらい

ハイリスク母子（家族）の援助、助産所・母子健康センターにおける助産師の活動を通して、助産師としての活動の場の特性と役割を理解する。場の違いによる助産師の役割と場が違って変わらない助産師の役割の本質を考察する。

■ 到達目標

- ① ハイリスク妊婦、ハイリスク新生児の援助の実際を学び、助産師の役割を考察する。
- ② 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期におこる異常の予防と早期発見、緊急時の対応、および他職種、他機関との連携について理解する。
- ③ 助産所・母子健康センターの役割と機能を理解し、助産師の役割を考察する。
- ④ 助産所、母子健康センターにおける緊急時の対応、他の医療機関との連携、他職種との協働について考察する。
- ⑤ 場の違いによる助産師の役割の特性と場が違って変わらない助産師の役割の本質を考察する。

■ 実習施設

市立札幌病院・JCHO 北海道病院・天使病院・別海町母子健康センター・助産院あゆる

■ 実習計画・方法

1. 実習計画

- 1) ハイリスク事例 1 単位
病院実習
産科病棟（MF ICU：母体胎児集中治療室）（2 日間）
新生児（NICU：新生児集中治療室）（2 日間）
- 2) 地域・助産所実習 1 単位
 - ① 助産所実習：2-3 日間（含、夜間の待機）
 - ② 母子健康センター：2 日間

2. 実習方法

- 1) ハイリスク事例
ハイリスク事例の異常の成因、症状、ケア、医療処置について学び、スタッフの行っているケアを見学し、可能なケアについては指導のもとに実施する。
- 2) 地域・助産所実習
 - ① 助産所における助産活動の実際を見学・可能なケアを実施する。
 - ② 母子健康センターにおける母子のケアの実際を見学・可能なケアを実施する。

■ 成績評価基準・評価方法

2/3 以上の出席を原則とし、実習内容、実習態度および実習記録・レポートに基づき総合的に評価する（母子健康センター・助産所の記録は、帰札後の月曜日に提出すること）。理由なく実習記録・レポートの提出が遅れる場合は評価対象外となる。

■ その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）

実習の環境もこれまでとは異なりますので、自己の健康管理に注意して主体的に学修を進めて下さい。

授業 科目	助産学実習V		単位数	1	科目区分 必修	科目等 履修生	不可
			時間数	45	後期		
科目責任者	山本真由美		担当教員	山本真由美 渡邊由加利 山内まゆみ 森川由紀 石引かずみ 大友舞 宮崎みち子			

■ 科目のねらい

病院・診療所の産科病棟（含、総合(地域)周産期母子医療センター）および外来（含、助産師外来）における助産管理の実際を学び、産科医療を取り巻く管理の基本を学修する。

■ 到達目標

- ① 産科病棟および外来における助産管理の実際が理解できる。
- ② 産科医療チームの一員としての役割が発揮できる。

■ 実習施設

市立札幌病院・JCHO 北海道病院 他

■ 実習計画・内容

1. 産科病棟および外来における管理者の助産管理の実際（含、人的・物的管理、医療事故防止・対応、他職種・他部門・他機関との連携と協働等）を見学する（1日）。
2. 分娩を含む管理の実際（含、緊急分娩・緊急時対応等）を指導者（リーダー）と共に実施する（1日）。
3. 複数の母子を受け持ち、母子管理の実際を実施する（母子二組以上、2日間）。

■ 成績評価基準・評価方法

2/3 以上の出席を原則とし、実習内容、実習態度および実習記録・レポートに基づき総合的に評価する。理由なく実習記録・レポートの提出が遅れる場合は評価対象外となる。

■ その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）

助産師は専門職者として、実践領域で管理業務を行います。分娩をはじめとした周産期には、緊急事態や予測困難なことが数多くあります。そのような中で、対象者にとって、安全で快適な助産を提供するための管理の実際や質を保証するためのチーム医療の在り方を考えてください。

V 開講科目

3 統合助産学

授業科目	助産学演習	単位数	2	演習 必修	科目等履修生	不可
		時間数	60	通年		
科目責任者	渡邊由加利	担当教員	羽深久夫 金子晋也 宮崎みち子 渡邊由加利 山内まゆみ 山本真由美 森川由紀 石引かずみ			

■ 科目のねらい

助産学の基盤となる看護過程を再確認する。日常的に遭遇する事例(含、助産学実習・施設見学)を、「助産師が行なうケア」「助産実践の倫理」「女性の健康と人権」などの視点を踏まえ検討し、助産ケアの質の向上を探る。さらに、既習の「助産所の管理運営の基本」を基盤に、広く「助産師が活動する場」に関する具体的な展望を探る。

■ 到達目標

- ① 紙上事例を題材に、看護過程が展開できる。
- ② 事例(含、助産学実習・施設見学)を多角的視点から分析・解釈し、助産実践への応用が考察できる。
- ③ 「出産する場」に関する展望を考察できる。

■ 授業計画・内容

- 第1回 演習に関するオリエンテーション・助産学基礎演習 (渡邊由加利)
- 第2回～第7回 助産学基礎演習
(渡邊由加利・山内まゆみ・山本真由美・森川由紀・石引かずみ・宮崎みち子)
- 第8回～第15回 事例検討(1)(含、受胎調節実地指導に関する演習)
(山内まゆみ・森川由紀)
- 第16回～第18回 事例検討(2)
(渡邊由加利・山内まゆみ・山本真由美・森川由紀・石引かずみ・宮崎みち子)
- 第19回～第20回 助産師活動：開業の基礎(1)；助産師の起業 (ゲストスピーカー)
- 第21回～第22回 助産師活動：開業の基礎(2)；建物を建てること (羽深久夫・金子晋也)
- 第23回～第25回 「出産する場」に関する検討：安全管理とリスク管理 (宮崎みち子)
- 第26回～第28回 助産師に必要な知識と技術の総合演習(施設見学)
重症心身障害児(者)施設 北海道療育園
- 第29回～第30回 助産師に必要な知識と技術の総合演習(OSCE)
(山内まゆみ・山本真由美・森川由紀・石引かずみ・宮崎みち子・渡邊由加利)

■ 成績評価基準・評価方法

演習への参加状況およびレポートによる総合評価。

■ 教科書

各授業で使用した教科書

我部山キヨ子他編「母子の健康科学 第5版」(助産学講座3)(医学書院、2016年)

日本家族計画協会「受胎調節指導用テキスト リズムダイヤル付」第3刷一部改訂

(日本家族計画協会 2016年)

■ 参考書

各授業で紹介された参考書

木村好秀・齋藤益子「家族計画指導の実際 少子社会における家族形成への支援(第2版)」、
(医学書院、2007年)

■ 関連連科目

全科目

■ その他(学生へのメッセージ・履修上の留意点)

助産学基礎演習を基に、各種事例に提供した助産ケアの評価を綿密に行ない、そのケアの質に関する課題を共有し検討を重ねます。また、これらの検討を基盤に「出産する場」に関する展望を探ります。

なお、本科目で展開する内容は、受胎調節実地指導員の資格認定に必要なものの一部を含みます。

授業科目	助産学課題研究	単位数	2	演習 必修	科目等履修生	不可
		時間数	60	通年		
科目責任者	宮崎みち子	担当教員	宮崎みち子 山内まゆみ 森川由紀			

■ 科目のねらい

「助産学実習」において担当した事例の助産実践を研究的視点で考察する。

■ 到達目標

- ① 研究のプロセスをたどることができる。
- ② 文献を批判的に読むことができる。
- ③ 分娩期を中心とした助産実践を研究的視点で多角的に分析・解釈できる。
- ④ 研究論文が作成できる。

■ 授業計画・内容

第1回	ガイダンス	
	研究と助産師・研究のプロセス・事例研究の進め方(1) (宮崎みち子)	
第2回-第9回	文献検討・事例研究の進め方(2)	} (担当教員)
第10回	中間報告会(1)	
第11回-第17回	研究の実際	
第18回	中間報告会(2)	
第19回-第25回	研究の実際	
第26回-第29回	研究発表会	
第30回	まとめ(宮崎みち子)	

■ 成績評価基準・評価方法

研究への参加状況および研究論文による総合評価。

■ 教科書

我部山キヨ子他編「助産学概論 第5版」(助産学講座1) (医学書院、2015年)
 これまで、看護研究の学修に使用した教科書

■ 参考書

平成28年度札幌市立大学助産学専攻科「助産学課題研究」論文集
 平成28年度札幌市立大学看護学部「卒業研究」抄録集 その他、授業で紹介します。

■ 関連科目

全科目

■ その他(学生へのメッセージ・履修上の留意点)

既習の研究に関する知識を活用し、計画的に自己学修を積み重ね、論文の完成に向かいましょう。

VI 自己評価

助産師の卒業時の到達目標と到達度(案)

■卒業時の到達度レベル

I: 少しの助言で自立してできる II: 指導のもとでできる III: 学内演習で実施できる IV: 知識としてわかる

助産師の卒業時の到達目標			4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	
大項目	中項目	小項目	到達度				
1 母子の命の尊重		1 母体の意味を理解しとその保護	II				
		2 子供あるいは胎児の権利の擁護	II				
		3 両者に関わる倫理的課題な対応	II				
2 妊娠期の診断とケア	A 妊婦と家族の健康状態に関する診断とケア	4 時期に応じた妊娠の診断方法の選択	I				
		5 妊娠時期の診断(現在の妊娠週数)	I				
		6 妊娠経過の診断	I				
		7 妊婦の心理・社会的側面の診断	I				
		8 安定した妊娠生活の維持に関する診断	I				
		9 妊婦の意思決定や嗜好を考慮した日常生活上のケア	I				
		10 妊婦や家族への出産準備・親準備の支援	I				
		11 現在の妊娠経過から分べん・産じよくの予測と支援	I				
		12 流早産・胎内死亡など心理的危機に直面した妊産婦と家族のケア	II				
		13 最新の科学的根拠に基づいた情報を妊婦や家族に提示	II				
		14 出生前診断を考える妊婦の意思決定過程への支援	III				
		3 分べん期の診断とケア	C 正常分べん	15 分べん開始の診断	I		
16 分べんの進行状態の診断	I						
17 産婦と胎児の健康状態の診断	I						
18 分べん進行に伴う産婦と家族のケア	I						
19 経膈分べんの介助	I						
20 出生直後の母子接触・早期授乳の支援	I						
21 産婦の分べん想起と出産体験理解への支援	II						
22 分べん進行に伴う異常発生への予測と予防的行動	I						
D 異常状態	23 異常発生時の観察と判断及び行動			II			
	24 異常発生時の判断と必要な介入			I			
	(1)骨盤出口部拡大体位		III				
	(2)会陰切開及び裂傷に伴う縫合(局所麻酔を含む)		III				
	(3)新生児の蘇生		III				
	(4)正常範囲を超える出血への処置		III				
	(5)子癲発作時の処置		IV				
	(6)緊急時の骨盤位分べん介助		IV				
	(7)急速速産術の介助		II				
	(8)帝王切開前後のケア		II				
	25 児の異常に対する産婦・家族への支援		IV				
	26 異常状態と他施設搬送の必要性の判断		IV				
4 産じよく期の診断とケア	E じよく婦の診断とケア		27 産じよく経過に伴う身体的回復の診断	I			
			28 じよく婦の心理・社会的側面の診断	I			
		29 産後うつ症状の早期発見と支援	II				
		30 じよく婦のセルフケア能力を高める支援	I				
		31 じよく婦の育児に必要な基本的知識と技術支援	I				
		32 新生児と母親、父親、家族のアタッチメント形成の支援	I				
		33 産じよく復古が阻害されるか否かの予測と予防的ケア	I				
		34 生後1か月までの母子の健康状態の予測	I				
		35 生後1か月間の母子の健康診査	I				
		36 1か月健康診査の結果に基づいて母子と家族の支援とフォローアップ	II				
	37 母乳育児に関する母親に必要な知識の提供	I					
	38 母乳育児に関する適切な授乳技術、乳房ケア	II					
	39 母乳育児を行えない/行わない母親への支援	I					
	40 母子愛着形成の障害、児の虐待ハイリスク要因の早期発見と支援	III					
	F 新生児の診断とケア	41 出生後24時間までの新生児の診断とケア	I				
		42 生後1か月までの新生児の診断とケア	I				
43 両親の心理的危機への支援		II					
44 両親のアタッチメント形成に向けた支援		I					
45 NICUにおける新生児と両親への支援		IV					
46 次回妊娠計画への対応と支援		II					
5 出産・育児期の家族ケア	47 出生児を迎えた生活環境や生活背景をアセスメントする	I					
	48 家族メンバー全体の健康状態と発達課題のアセスメント	I					
	49 新しい家族システムの成立とその変化のアセスメント	II					
	50 家族間の人間関係のアセスメントと支援	II					
	51 地域社会の資源や機関を活用できる支援	II					
6 地域母子保健におけるケア	52 保健・医療・福祉関係者との連携	II					
	53 地域の特性と母子保健事業のアセスメント	II					
	54 消費者グループのネットワークへの参加とグループ支援	IV					
	55 災害時の母子への支援	IV					
7 助産業務管理	H 法的規定	56 保健師助産師看護師法等に基づく助産師の業務管理	IV				
		57 周産期医療システムの運用と地域連携	IV				
	I 周産期医療システムと助産	58 場に応じた助産業務管理の実践	IV				
		(1)病院における助産業務管理	IV				
		(2)診療所における助産業務管理	IV				
8 ライフステージ各期の性と生殖のケア(マタニティステージを除く)	J 思春期の男女への支援	59 思春期のセクシュアリティ発達への支援	III				
		60 妊娠可能性のあるケースへの対応と支援	IV				
		61 二次性徴の早・遅発ケースへの対応と支援	IV				
		62 月経障害の緩和と生活支援	III				
		63 性感染症予防とDV予防の啓発	IV				
	K 女性とパートナーに対する支援	64 家族的支援と教育関係者及び専門職との連携支援	IV				
		65 家族計画(避妊調節法を含む)に関する選択・実施の支援	I				
		66 健康的な性と生殖への発達支援と自己決定の尊重	IV				
		67 DV(性暴力等)による予防と被害相談者への対応・支援	IV				
	L 不妊の悩みを持つ女性と家族に対する支援	68 性感染症罹患のアセスメント・支援及び予防に関する啓発活動、他機関との連携	IV				
		69 生活自立困難なケースへの妊娠・出産・育児に関する資源情報の提供と支援	IV				
M 中高年女性に対する支援	70 不妊治療を受けている対象の理解と自己決定への支援	IV					
	71 不妊検査・治療等の情報提供と資源活用の支援	IV					
	72 家族を含めた支援と他機関との連携	IV					
9 助産師としてのアイデンティティの形成	73 健康的なセクシュアリティ維持に関する支援と啓発	III					
	74 中高年の生殖系に関する健康障害の予防と日常生活上の支援	IV					
		75 加齢に伴う生殖系系の健康管理とQOLへの支援	IV				
		76 助産師としてのアイデンティティの形成	I				